3/'09

しゃくなげ会報

第二号　（二〇〇九年三月）

「江州音頭」のお話

◇「江州（ごうしゅう）」は滋賀県・近江の国の異称。しかし江州音頭のことを地元では「ごうしゅうおんど」とは言わず「ごうしおんど」と発音する。

◇江州音頭は滋賀県全域はもちろん、近畿地方の各府県で盆踊りに用いられる。

◇発祥地には二つの説があり、延命公園（東近江市八日市松尾町）とも、千樹寺（犬上郡豊郷町）とも言われ、両所に石碑が建っているが、前者は江州音頭を考案した場所、後者は初めて披露した場所らしい。

仏教のお経の節である声明（しょうみょう）が源流であるが、次第に宗教色を薄めて遊芸として独立した。幕末に八日市の西澤寅吉が独特の節回しを考案して、踊りと融合させた新たな音頭を作り上げた。そして明治初年に千樹寺で踊りを披露したのが江州音頭の始まりである。西澤は後に桜川大龍を名乗り宗家となった。

◇近代漫才のパイオニア的存在で、上方芸界の頂点に君臨し続けた故・砂川捨丸は江州音頭取りの出身である。（中村春代とコンビを組んだ）

◇江州音頭は、関西におけるもう一つの有名な音頭である河内音頭の成立にも、兄貴分として大きな影響を及ぼした。

◇昭和の中頃までは、夏の夜、特に休日の前夜ともなると、滋賀県内のどこかで、盆踊りをする江州音頭の音色が流れていたものである。

◇極めて簡単な踊りなので、今後、しゃくなげ会で少しずつマスターして楽しみたい。

滋賀県にもある「日本三大〇〇」

【日本三大霊場】恐山（青森県）・高野山（和歌山県）・比叡山

【日本三不動】青蓮院の青不動（京都府）・園城寺の黄不動・明王院の赤不動（和歌山県）

［注］滋賀県には延暦寺、石山寺、西明寺にも重要文化財の不動明像がある。

【日本三大曳山子供歌舞伎】近江長浜・武蔵秩父（埼玉県）・加賀小松（石川県）

【日本三大多宝塔】石山寺・金剛三昧院（和歌山県）・浄土寺（広島県）

［注］多宝塔は仏塔の一形式。一階部分は方形、二階部分は円筒形、屋根は方形。

【日本三名鐘】神護寺（京都府）・平等院（京都府）・園城寺（おんじょうじ）
【日本三大商人】大坂商人（大阪府）・近江商人・伊勢商人（三重県）
【日本三大名月の里】姥捨山（長野県）・石山寺・桂浜（高知県）
【日本最大雨量】尾鷲市（三重県）・剣山（徳島県）・彦根市
［注］明治二十九年九月七日、彦根市の一日の雨量は五九七ミリを記録、芹川の氾濫、琵琶湖の満水で城下の大半は浸水、市街に舟を浮かべ二階の窓から出入りした。
【日本三大弁天】江ノ島（神奈川県）・竹生島・宮島（広島県）
【日本三大珍味】くさや（東京都）・鮒鮨・黒作り（富山県）
【日本三大牛】松阪牛（三重県）・神戸牛（兵庫県）・近江牛
【日本三大俳諧道場】落柿舎（京都府）・無名庵（むみょうあん）・鳴立庵（神奈川県）

老年暴走族だより

〔Ⅱ　自家用車〕

平田文一（近江八幡出身）

私は昭和四十三年に初めて自家用車を持つ事が出来ました。ブルバード（１２００ｃｃ）の中古車で、確か三十万円位であったと思います。

千葉市の団地に住み、勤務先の東京目黒まで一時間四十分かけて通勤していました。

車に乗るのは休みの日が殆んどで、よくバッテリ充電の為九十九里海岸まで子供を乗せて走りました。海岸でアサリ獲りをして、味噌汁の具にした事を思い出します。

車で最初に遠乗りしたのは、故郷近江八幡に帰った時です。

当時はまだ首都高速が無く、東名高速に入るには用賀の入口まで都心を走り抜けるのが大変で、朝四時に出発して都心の信号が点滅している時間帯に通り抜け、用賀には六時前に到着する様にしていました。

一度、大晦日から正月にかけて滋賀県へ帰郷しての帰路、関が原が雪で通行止めになり、三重県の亀山警察署に鈴鹿峠の道路状況を聞いて、鈴鹿峠経由で四日市から２３号線を岡崎まで走りました。東名インターに入って少し走ったら、豊川稲荷の初詣の渋滞に巻き込まれ、やっとの思いで豊川インターを抜け、浜名湖辺りから通常に走ることが出来ましたが、千葉に戻ったのは十九時頃になり、十時間近く車に乗っていた事もありました。

現在は、七台目の車に乗っていますが、それぞれの車にいろいろの思い出がありますし、車で走っていると色々な事が起こります、しかし楽しみも多くあり、いまだに走ることの楽しみを求めている、車人間である事を認めざるを得ません。

（次号へ続きます）

次に二枚の写真を掲げる。

近江恋々（２）　　久田　二郎（歌誌「寸信」主宰・永源寺出身）

明治三十四年十月

人物を言うのではなく、その学校名とその制服をお目に掛けたいのだ。右の学生は私の父。日本最初の商業専門学校の八幡商業の一期か二期の卒業と聞いていた。何んとも奇態な服装だ。モーニングコートの原形？　隣に父母が写っている。あごの下が白いのは写真の破損。帽子に白線二本は何の意味か。上着の下は何か。チョッキ？　上着にボタンが五つ付いているが外している。ボタン穴がないように見える。左右を寄せた真ん中にボタンがある。チョッキはちゃんとボタンを止めていて、ボタンは七つあるようだ。上と中の間に何か下がっているのが気になる。撮影年月は明治三十四年（一九〇一年）十月。蒲生郡から、どうやって通学したのか。

左の写真は八歳年長の姉。愛知川高女の生徒。背景は愛知川。髪は真ん中で分けているがこれが規定なのだろう。胴をしっかり紐で締めて前に垂らしている。清楚な感じの制服だ。袖が短いのが目を引く。胸にバッジを付けている。手元の傘は白色。暗っぽい服装と対照的だ。若い男性の目にとまったことだろう。よく見ると傘の柄に大きなリングが付いている。実用の物とは思えないがアクセサリーだろう。昭和二年四月の写真だが、この和装が洋装になるのは何時のことか。八幡商業の写真は明治三十四年で洋服。その間二十六年、男尊女卑の風潮によるのか。

（次号へつづく）

近江の名句　②

三上八郎（五個荘出身）

行く春を近江の人と惜しみける　松尾芭蕉

この句には「望湖水惜春（湖水ヲ望ミ春ヲ惜シム）」と前書きがある。

万葉の昔から歌にうたわれつづけた琵琶湖で遊びながら、古き時代の史実を想いめぐらし、近江の知人とともに行く春を惜しんでいる。

中学、高校の教科書にも採録されているこの有名な句には、俳聖芭蕉の湖国に対する思い入れの深さが表現されている。

元禄三年の作、「猿蓑」所収。

滋賀の味②「赤こんにゃく」

近江八幡では「左義長まつり」が有名ですが、安土桃山時代には、織田信長自ら女装して祭を盛り上げたと言われます。そして万事派手好みのこの武将は、こんにゃくまで紅く染めさせたのが、「赤こんにゃく」の由来とされています。この独特の鮮やかな赤色の正体は三二酸化鉄（三酸化二鉄）で、人体に不可欠の鉄分の補給にもなる逸品です。

今回、しゃくなげ会例会のおみやげ品として、滋賀県のメーカーから取り寄せました。

⑦ 湖国奇談 Ⅱ 「竹生島は糞（くそ）まみれ」

びわ湖北部に浮かぶ名勝・竹生島が今、カワウの糞害で糞まみれとなっている。その数は二万羽といわれ、島の木々は枯死し水質は汚染されていて、県は対策に苦慮している。琵琶湖八景の一つに数えられ、島には竹生島神社や宝厳寺などの社寺や、みやげ物店などがあるが、神主、僧侶等いずれも通いであり、夜は無人島となってカワウの天国である。二〇〇七年には時の安倍首相も糞害を視察したが、「たいへんですね」と言っただけなので、関係者はフンガイしたらしい。

←

江州弁メモ（方言は国の手形） 2

江州弁について、作家司馬遼太郎は云う。

「近江はことばのいい土地、むかし彦根で老婦人が立ち話をしているのを耳にし、音楽のように感じた。大坂の船場ことばは、京ことばを真似そこなったものだが、近江の丁寧言葉が元祖であった。船場の中核的な商家の多くは近江系であり、江戸・明治期には近江から丁稚を採用していたのだから」、これは誉めすぎだが、次のような言葉はいかが。

・・・やす お帰りやす、ごめんやす、あがっとくれやす、おきばりやす、等と挨拶。

・・・ほん 「・・・よ」の意。「ほんなことしてたら罰が当たるほん」

なまずけない 不精だ、だらしない、いい加減だ、の意。

きずつない 気がひける、耐えるのがつらい、の意。

あこかい・あっかい 駄目じゃないか、の意。「ほんなことしたらあっかいな」

二〇〇八・八「しゃくなげ会」例会結果報告

（日時）八月十日（日）一二・〇〇～一四・〇〇　（会場）沼津甲羅本店
（出席連絡）一五名（実出席）一四名（会費）二、二〇〇円
（支出）彩り御膳 二、一〇〇円　通信・会報費用一〇〇円
【注】欠席者全員に「しゃくなげ会報」を送付

この会報を長く続けたいと思います。原稿は左記へお寄せください。
（発行所）〒410-0874 沼津市松長九二一－六－一〇〇三　三上八郎